

「次世代足場」と呼ばれる足場の特徴

1. 安全性がある手すり先行工法を使用
2. 抜け止め機能のついた手すり（従来型の打込みクサビでは抜ける可能性がある）
3. クレーンによる大組、大払しが可能
4. 階高が1,800mm～1,900mm（枠組足場は約1,700mm）
5. 型枠支保工のシステム承認を取得（一般社団法人仮設工業会の承認制度）

【メリット】

足場内の空間が広く作業性が向上する（枠組足場ではかがまないと頭がぶつかる）



「建地と床材のすき間12cm未満とする」労働安全衛生規則の改正を見据えて開発されたため、すき間を埋める部材を取付ける必要がほとんどありません。

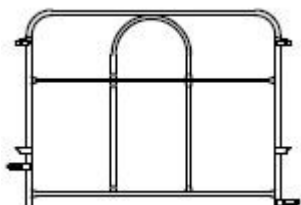


【メリット】

枠組足場と比べて、部材が分割されたため足場材がかさばらず、運搬時の積込み面積が削減されます。また、各部材の重量が軽くなりました。

枠組足場（手すり先行 1800mm スパン用）

積込み面積 2.53m² 重量 13.0kg



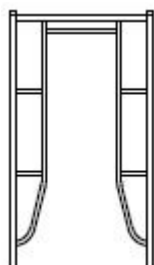
次世代足場（手すり先行 1800mm スパン用）

積込み面積 0.49m² 重量 7.2kg



枠組足場（建枠 W900）

積込み面積 1.603m² 重量 15.0kg



次世代足場

（支柱 2 本、手すり棧 W900×1 本）

積込み面積 0.576m²

支柱 6.2kg/本、手すり棧 2.3kg 本



【デメリット】

- ① 次世代足場は従来の枠組足場に比べると部材単体の許容荷重は少なくなっておりますが、専用の補強材を用いて組立することで、許容荷重を増加させることができます。
- ② メーカー毎でシステム承認を取得しているため、メーカー毎の部材の互換性がない足場が多いです。

保全公社では安全パトロールを毎年数回開催していますが、枠組本足場・くさび緊結式足場（次世代足場は除く）の指摘事項で多かったのが、「床材間の隙間は 3cm 以下にすること」と「床材と建地との隙間は 12cm 未満とすること」でした。労働安全衛生規則第 563 条に記載されており、是正対象になります。また、「くさび緊結式足場の組立て及び使用に関する技術基準（一般社団法人 仮設工業会）」には「緊結部付支柱を接続したほぞ部又はジョイント部は抜止めを施す。」と記載されていますが、抜止めを施されていない足場が見受けられます。抜止めは必ず施してください。

